

2階展示室

歴史資料展示

浜松市の銅鐸

銅鐸は、弥生時代を代表する青銅器です。中国四国地方から東海地方にかけての範囲を中心に分布しています。表面に絵画が表現されたものがあり、その特徴から農耕に関わる祭祀に用いられたと考えられています。

浜松市では19個の銅鐸が知られており(破片を除く)、そのうち14個は浜名湖周辺で出土しています。

浜松市で出土した銅鐸は、大別すると2種類のものがあります。一つは、鈕と呼ばれる半円形の頭に飾り耳が三つ付いた「近畿式銅鐸」、もう一つは、飾り耳のない三河(愛知県東部)、遠江(静岡県西部)で多く出土する「三遠式銅鐸」です。両者は、生産地の違いを示すとみられています。



▲近畿式銅鐸(穴ノ谷銅鐸) ▲三遠式銅鐸(七曲リ2号銅鐸)

屋外展示

静岡県指定有形民俗文化財 旧山瀬家のコヤ(産屋)

この産屋は、細江町石岡の山瀬家にあったものを、昭和60年(1985)に移築しています。江戸時代末期に建てられものと推定され、明治の初めまで使用されていました。



利用案内

開館時間 午前9:00～午後5:00(入館は午後4:45まで)

休館日 月曜日(祝日は開館)
祝日の翌日
年末年始(12/29～翌年1/3)
※臨時開館、休館等により、休館日が変更される場合があります。(お問い合わせください。)

観覧料 無料

アクセス ・天竜浜名湖鉄道「気賀駅」下車、徒歩7分
・浜松駅バスターミナル⑮番乗り場から遠鉄バス「気賀・三ヶ日」行きに乗車約55分、「国民宿舎入口」で下車、徒歩2分

案内図



浜松市

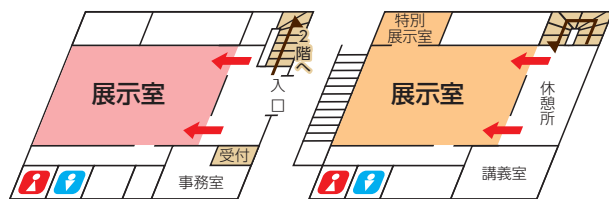
姫街道と銅鐸の 歴史民俗資料館



滝峯才四郎谷銅鐸

〒431-1305 静岡県浜松市浜名区細江町気賀1015番地の1
電話 053-523-1456 FAX 053-523-1456

館内案内



1階

1階展示室では、奥浜名湖と呼ばれる、この地域の生活文化を伝える**民俗資料**を展示しています。

2階

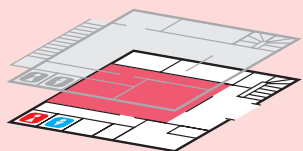
2階展示室では、近隣地域から出土した銅鐸と姫街道などに関する**歴史資料**を展示しています。

姫街道と気賀宿

姫街道は、東海道の見付宿（静岡県磐田市）から天竜川を渡り、三方原を横断し、気賀宿、三ヶ日宿を通り、本坂峠を越え、御油宿（愛知県豊川市）へと通じる約60kmの道のりで、古くから「本坂通」と呼ばれていました。

新居関所の厳しい「女改」を嫌い、公家や武家の奥方、姫君が通行したため「姫街道」と呼ばれるようになったとも言われています。

気賀宿の東端には、気賀関所が設けられ、本陣1軒、旅籠8軒、問屋場1か所が置かれていました。



1階展示室

民俗資料展示

浜名湖周辺の蘭草栽培と 畳表の生産

浜名湖北岸や都田川、井伊谷川流域では、昭和40年代まで蘭草栽培と畳表生産が重要な産業の一つでした。



イチビトカシ

イチビの皮を鉄製のくしでとかして繊維にする機械

七島蘭分割機

琉球蘭の断面三角形の茎を縦二本に割く(分割する)ための道具



浜名湖周辺の蘭草栽培は、備後蘭と琉球蘭(七島蘭)の2種類があり、備後蘭栽培は、三ヶ日町の高栖寺の玉庵禅師が永正16年(1519)に境内に植えたのが始まりとされており、村人に栽培法を指導、奨励し、のちに「大谷表」「浜名表」と呼ばれる畳表産業の基礎を築いたと伝えられています。



畳表織機

明治時代に使われていた2人で畳表を織る機械

琉球蘭栽培は、気賀の領主旗本近藤用随が宝永4年(1707)の大地震をきっかけとする浜名湖畔の水田の塩害対策として、領民に栽培を奨励したこと

が始まりだとされています。その後、中川・都田・井伊谷にも普及し、「遠州表」の名で各地に出荷されていました。

浜名湖の漁法と漁具

淡水と海水が混じる浜名湖では、多様な漁法が行われてきました。浜名湖で行われた特徴的な漁法である「罾目網漁」は、江戸時代から行われたボラやスズキを主たる捕獲対象とした網漁のことで、伝承によれば天保元年(1830)に入出(現在の静岡県湖西市)で始まったとされています。



▲昭和30年頃まで、実際に罾目網漁で使われていた和船

「罾目網漁」に関する資料やその他の漁法、魚を誘い入れて捕まえる籠状の「うげ」等の漁具を展示しています。



漁具 はぜかご

かごを横に沈め、中に入ったハゼを捕獲する

漁具 うげ

河川や湖沼等に設置し、ふなや鯉などの習性を利用して捕獲する

